

第4回 東京都版市場化テスト監理委員会 議事概要

1 日 時

平成19年12月5日（水）14時から

2 場 所

東京都庁第一本庁舎 33階 特別会議室 S 2

3 出席者

〔委 員〕 根本委員長、灰原委員、松崎委員、新田委員、有我専門委員
〔都 側〕 事務局（総務局行政改革推進部行政改革課、財務局経理部総務課）、
産業労働局総務部総務課、雇用就業部能力開発課

4 議 題

- (1) モデル事業（平成20年度事業）の民間事業者から提出された事業計画書に対する評価（案）について
- (2) その他

5 議 事

- (1) 産業労働局雇用就業部より説明

【議題1】

- ・ 資料1により、事業計画書等の提出状況について説明
- ・ 資料2により、落札者決定基準における評価の視点及び評価基準等について説明
- ・ 資料3により、案件ごとの採点状況を説明

- (2) 事務局より説明

【議題2】

- ・ 今後の入札スケジュールについて説明
- ・ 民間事業者からのご意見に対する都見解の公表及び再検討要請受付の結果について説明

- (3) 質疑の概要（○は委員意見）

【議題1】

（非公表資料により議論）

【議題2】

- 再検討要請が無かったということについてはどのように評価しているのか。

〔事務局〕

事業者には見解を発表した旨を通知したが、その上で要請は無かった。

- 民間から再検討要請を受けて、ブラッシュアップをしていくということは、都にとってもメリットである。そうならなかったということは、満足していただいたか、あきらめたか。後者でなくするため、何か考えなくてはいけない。都としては最大限やったということでは次につながっていかない。例えば、事業者からヒアリングをするのはどうか。お互いにとって建設的ではないか。今回はこういうルールでやったのでいいが、これで満足することなく、次のステップに備えて、何らかの工夫を今のうちから考えておいていただきたい。
- 対話は難しい。今回は、都の対応について満足いただいたという風に解釈してもよいと思う。さらにレベルアップするということに、具体的にどんなアクションを取れるのか。すぐには思いつかないが。
- 都の規模をもってこの件数というのは非常に残念でならない。どうして民間はそこまで本気にならないのかということをお我々は考えなければならない。本気で知恵が出てくれば、すごくいいものが出てくるはず。何か工夫をしなければならないと思う。
- どれだけ周知されているか。ホームページでアップしているが、関係者に必ずしも周知されていないのではないか。必ずしもウェブ上でアクセスできる方ばかりでもない。機会があるごとに都の姿勢を説明することを継続的に行ったほうがよい。
- 他の基礎自治体において、提案者加点制度を入れようとしている。提案したものがその後の総合評価において加点される方式。現状では提案しても仕事を取れるか分からず、そういう状態で民間に本気の知恵を求めるのは無理がある。我孫子市では随意契約を行っており、これは無理であっても、5点でも10点でも、2、3点でもよいので、提案者か点が付いてくれば、提案をすることの合理性が社内的に認められることになる。そういうことも含めて考えていただきたい。都が提案者加点制度を導入するとなれば、世界が注目すると思う。その点を取るために、いろいろな人がいろいろな提案を出してきて、都のメリットとなる。来年度に向けて事務局の方でご検討いただければ。